

平成28年度第1回横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会	
日 時	平成28年7月15日（金） 10時00分～11時53分
開催場所	関内中央ビル10階 大会議室
出席者	青木委員、井上委員、内海委員、川畑委員、坂田委員、佐伯委員、下嶋委員、竹谷委員、田高委員、中野委員、名和田委員、西尾委員、畑尻委員、福松委員、山田委員、米岡委員
欠席者	赤澤委員、合田委員、増田委員、森本委員
開催形態	公開（傍聴者0名）
議 題	<p>議事 【議事1】 委員長の選出について</p> <p>【議事2】 職務代理者の指名について</p> <p>【議事3】 第3期市計画評価について</p> <p>報告 【報告1】 計画推進における平成28年度の取組について</p> <p>【報告2】 よこはま地域福祉フォーラムについて</p>
決定事項	<p>【議事1】 名和田委員を委員長に選出した。</p> <p>【議事2】 西尾委員を職務代理者に指名した。</p> <p>【議事3】 第3期市計画評価について、各委員から意見を聴取した。</p>
議 事	<p>開 会</p> <p>議 事</p> <p>【議事1】 委員長の選出について ～ 名和田委員を委員長に選出した。</p> <p>【議事2】 職務代理者の指名について ～ 西尾委員を職務代理者に指名した。</p> <p>【議事3】 第3期市計画評価について</p> <p>（事務局）資料1、2-1、2-2、2-3について説明</p> <p>（名和田委員長）皆様には事前に資料2-3について御意見をいただいておりますが、さらに今日はまた御議論いただいて、事務局で御意見を整理し、次の委員会で評価を確定していく、そういう流れになります。今日の委員会においては中間評価を確定するわけではないので、なるべくたくさんの御意見を出してほしいと思います。</p> <p>では、今から資料2-3に基づいて、柱ごとに確認していきます。柱1-1から御説明していただき、その後御意見をいただきたいと思います。</p> <p>（事務局）柱1-1について説明</p> <p>（名和田委員長）これは各区の取組等がメインの柱です。自治会・町内会の理解が非常に進んで、地域福祉は本来の仕事だという文化がかなり定着してきたことが、この柱1の取組の中での重要な成果ではないかと考えています。その点はまた次回の中間評価の取りまとめに際して、意見があれば議論したいと思います。</p> <p>（事務局）柱2-1について説明</p> <p>（名和田委員長）何か御意見がありましたらお願いします。</p> <p>（山田委員）災害時に、ひとり暮らしの方や、言語の通じない方、外国にルーツのある方もおり、日ごろの地域の関係性をその地区が一緒になって考えていくことが必要だと思っています。行政、自立支援協議会、社協や災害時ボランティアが中心になって、いろいろな想定をしたマニュアルなどを一緒に考える場があるといいなと思っています。</p>

私の法人も乳幼児一時預かり事業をやっていますが、まだまだ足りない状況です。地域子育て支援は、広場の支援と両輪で一時預かりをやっていないと、地域の支援はできない状態にあると感じており、現場は非常に大変です。それができる環境をつくっていく。事業者を支えていく行政の姿勢というのもあるといいなと思っています。

(内海委員) 現在、市内各地域で災害時の要援護者の問題は、いろいろなところでやっていますが、それを有効にするためには、日常時の顔の見える関係をどう進めるのかという話が重要です。従来でいうと訪問活動が見守りといった、固定観念ができています。瀬谷区あたりで2～3年継続的に地域の中に入っていますが、訪問活動は拒否される方も非常にたくさんいます。実際に生活をしている高齢者のためになる活動として、それぞれの地域の特性に合った何か活動ができないかなど。それも組織だつて大規模にやるのではなく、内容に興味のある人を小グループでいいからまとめて、展開するような考え方の転換みたいなことも、少し必要ではないかなと感じました。

(名和田委員長) 訪問だけが見守りではない、そういう発想はかなり各区で広がっていると感じています。

(米岡委員) つながりの一番の基本は、自治会・町内会かなという思いがします。いろいろな団体が入っても、それは点であつて面ではないということで、まず一番大事なのは自治会・町内会が元気になることだと思っています。ですが、一番助けになる中間層の方が自治会・町内会に全く興味がないということで、子供のころから「自治会ってこういうことをしているんだよ」ということを繰り返し伝えるなど担い手として一番大切な層に自治会・町内会を意識してもらおうということ、今一生懸命やっているところです。

(名和田委員長) 事務局で整理をして次回に向けていただきたいと思います。次の柱2-2は、最も重点的に議論していただきたいところです。

(事務局) 柱2-2について説明

(名和田委員長) さっきの柱とも関連するような部分があると思いますが、改めまして御意見をいただきたいと思います。民生委員の立場から、青木委員いかがですか。

(青木委員) 民生委員の一斉改選が今年あり、11月30日をもって新しい民生委員が各地区から推薦されます。横浜市の場合は現在、200世帯～400世帯に1名、各自治会の町内会長さんを中心にして展開しているのですが、現実に民生委員が出ない地域があります。

横浜市の場合は、連合町内会ということで自治会をまとめていますが、連合町内会に入っていない自治会もあります。ここで議論される高齢者だとか、子育てだとか、そういう方たちを支える民生委員の立場だと、基本的には今、民生委員は大体1人で10人～15人くらいの定期訪問をしています。老老介護などで手を挙げられない方たちに民生委員が一軒一軒訪問するような活動は現在できていないのです。ですから、そういう方たちをどのように地域の中に入れていくか、支援するかというのが、今、民生委員としては一番頭の痛いところです。民生委員というものをなかなか御理解いただけないという現状を、各自治会・町内会あるいは民生委員の代表としては感じています。

この「安心して健やかに暮らせる地域」といってもいろいろな地域がございます。

そういったことを細かくした形で、小さな支援というか、我々のような者ができる仕組みづくりというのが、この地域づくりには大事ではないかと思います。

(名和田委員長) 民生委員の個別訪問が難しくなりつつあって、やはり地域で見守る活動が必要であるという考え方は、出ている御意見とつながるものがあったかと思いません。

(竹谷委員) 高齢者の夫婦やひとり暮らしの世帯が、全国では600万くらいあるそうです。栄区の民生委員は大体300人、それに対して高齢者、特に75歳以上の人は、横浜市で大体39万人いるので、栄区に換算すると2万人くらいになります。そういった数に対してサポートするメンバーは何人いるのか。しかも、地域によってどのような偏りがあるかといった数字を出す時期が来たのではないかと栄区では議論になりました。これから実際に政策を進めるにあたっては、そういう調査をやらずに、抽象的ないいことだけ書いてもだめではないかと。例えば民生委員とNPOのチームが幾つあるから、そのメンバーは何人いるというように、具体的な数字を出してマップに当てはめていかないと、2025年には対応できないのではないかとというようなことを申し上げて議論をしていました。そういうことで、評価ではもう少し具体的な数字を出さないといけない時期が来たのではないかと考えています。

(名和田委員長) 数字については、事務局では多分つかんでおられて、次回ある程度出すということでしょうか。

(事務局) 資料2-2にもう少し具体的な内容やデータが書かれています。今回、評価に当たっては尺度を設けており、量的及び質的の大きく分けて2つの尺度をもって、各取組の柱の評価をする基準を設けています。例えば、今ご議論いただいております柱2-2につきましては、4ページ、5ページ、6ページに資料としてまとめています。民生委員の充足率は、6ページの中段ほど、「量的」というところに網掛けがされていますが、25年度末、96.1%だったものが27年度末の段階では96.4%ということで、今回の中間評価をしていくに当たって、こういった数字も取り込んで総合的に考察をしていきたいと考えています。

(名和田委員長) 第3期になり、数字も出して議論をするということが必要な段階に来たということで、次回の中間評価決定に向かって、我々も勉強していかねばならないと思いました。

(畑尻委員) 自治会・町内会に対する御意見がございましたので、自治会連合町内会の立場から申しまして、これは地域によって違います。どれが基本的に共通しているかというのを、まず見つけ出すことが大事だと思います。具体的に言えば、自治会の役員はもう担い手がありません。自治会・町内会をつくっていても、連合町内会に入るのは嫌だと言うような人も、地域もあります。

私の地域では地区社協が活発に活動しています。地区社協が連合町内会を引っ張っています。例えば、3世代交流ミニ運動会というのを毎年やっていて、300名～350名中子供が100人以上集まります。高齢者が100人くらいです。その一番中心になるのが民生委員で、人を集めるのも上手だし、面倒見もいいです。そういうことで、地区社協が中心になって連合町内会と地区社協がうまくいっている地域もあるということです。

(名和田委員長) 地区別計画の推進体制、組織にもかかわるかなと思いました。保健活動推進員の福松さん、お願いできますか。

(福松委員) 私たちの任期は2年ですけれども、地域で次の方を選ぶというときに大変な思いをします。委員に出たくないとか、役をやりたくないという方が多く、若い方は仕事をしています。そういう点では、もっと参加してくれる方がいるといいな思っています。これは保健推進員だけでなく、民生委員にもいえます。活動していく上で、「委員をやります」という方も大勢いますが、代表になるのは嫌ということで、代表の方たちが何年も続けることになることもあります。ボランティアの場合は高齢になるとなかなか次の若手の人たちにつなげられない部分もあります。そういう点で、皆さんが活動できるようなところに「参加したいな」という気持ちになってもらうきっかけづくりというのが必要だなと思います。

(名和田委員長) では次の柱に進みます。

(事務局) 柱2-3について説明

(名和田委員長) これは権利擁護ですのでやや専門的な内容になります。もし御発言がありましたらお願いします。

【委員からの意見、特になし】

では、柱3-1です。これも重点課題ですので、二、三、御意見をいただきたいところです。事務局から説明をお願いします。

(事務局) 柱3-1について説明

(名和田委員長) 学校ということで、佐伯委員いかがでしょうか。

(佐伯委員) 学校地域コーディネーターを配置している学校が、横浜市でも増えています。この仕事は、学校と地域をつなぐというもので、地域が学校を今まで支えてきたものが、学校も地域に出ていって、お互いにコミュニティを形成しようというのが目的になっています。全体的に、学校と地域が寄り添っていくという、コミュニティスクールを形成しようという動きはすごく多いです。私の学校では、地域の高齢の方が学校に入るのが年に1回くらいでしたが、今は月に1回シニア会の方たちが、高学年の総合学習で福祉をやり、一緒に活動をしています。そういう意識を持つことがすごく大事ななと思っています。

(名和田委員長) 学校と地域福祉保健という観点で少しずつ関係ができてつあるのではないかなと。瀬谷区の検討会では、学校の校長が入っており、意見も言います。そういう意味では、進んでいるという実感があるということです。

(山田委員) 地域子育て支援拠点は各法人が各区の特性に合わせて、多世代をつなぐネットワークを展開してきたところがありますので、各区の地福計画の中でも評価されているといいなと思っています。市計画においても、18区の拠点が頑張ってきた多世代をつなぐネットワークというのは、ぜひ評価をしてほしいと思っていますし、人材育成の分野については、調査をして一冊の報告書にまとめているところもあり、ぜひ見てほしいと思っています。

それから、幼・保・小連携が進んできていることは実感していますが、接続期のプログラムだけに力を入れるのではなく、個々の事例をみんなで見つめて検討するフォロー体制が必要と思っています。特に子育てサポートシステムは、6年生までを対象とした事

業なので、放課後の見守りや、登校前の早朝の依頼とかもあります。子サポは非常に多いのですが、その背景には様々な事情がありますので、学校の先生や教育機関と地域の子育て支援との連携もこれからも必要と思っています。

それから、民間事業者が参入している、障害児通所支援事業、放課後デイサービスや児童デイがありますが、学校との連携がとれないという話を自立支援協議会でも聞いています。地域の居場所づくりなども一緒につながってできたらいいなと考えています。

(名和田委員長) それでは、次の柱3-2です。事務局から簡単にご説明をお願いいたします。

(事務局) 柱3-2について説明

(名和田委員長) この柱は、行政が行う事業が多いですが御意見がありましたら承りたいと思います。

【委員からの意見、特になし】

それでは、次の柱3-3です。

(事務局) 柱3-3について説明

(名和田委員長) 高齢者関連として、老人クラブということで竹谷委員からお願いします。

(竹谷委員) 老人会は、こんなに高齢者がふえているのに、全国的には会員数が減っています。その理由はやはり後継者が育っていない。それで、老人クラブとしては、自分たちが世の中を支えるためには、自分たちの足腰を強くしなければいけないということで、体質改善を始めています。かつて企業がやったように、役員は10歳若い人に全部年齢を下げて、それまでの方には居場所を用意しながらリタイアしてもらおうということをやっています、時間がかかっていますが、そういうことをして次の後継者を育てる。今は自治会等も含めて、老人クラブの使命がどういうものかを若い(高齢者)層に啓発する活動が、全国的に始っています。

これから高齢者がふえる中で、高齢者の数に対して民生委員の数は当然足りないので、それをカバーするのは我々がやらなければいけない。栄区では100人のメンバーを用意して、1年間かけて教育して対応していますが、そういう量的なものをこれからそろえていき、後継者の育成を図っていきたいと考えています。

(名和田委員長) この課題に対して、資料にある「老人クラブの活動のさらなる活性化を通じて」といったような課題が書いてあり、それに対する取組も既に一部始まっているかと思います。

では、次の柱の3-4に進みたいと思います。

(事務局) 柱3-4について説明

(名和田委員長) 柱2-2に次ぐ重点項目ですので、ぜひ御議論をお願いしたいと思います。中野委員お願いします。

(中野委員) 事前意見でも書きましたが、有償ボランティアの導入はどうかという御意見のところ、私もコミュニティビジネスの手法を取り入れてはどうかと思います。ボランティアというだけでなく、自分も楽しみながら、いろいろな団体がNPO化したりすると活動が活性化するのではないかなと思います。運営のためにも、ビジネス化を考えていったほうが長く継続できるように思います。

また、NPO化したからといって、もともと弱小なNPOは弱小です。そういうときに、自分たちの弱みを知った上で、ほかのグループや個が持っている強みや、得意技を力添えしてもらおうというアプローチもできると思います。同じ課題を感じた人たち同士でグループを組み、既存の団体に入らなくとも自分たちで動いて手を伸ばし合うことで、連携も進むのではないかとすることに期待しています。

(名和田委員長) この柱では、社会福祉施設がもっと地域と関係を結んでいくべきではないかという課題もあり、あまり地域と連携をしていない福祉施設もあると聞いています。

また、企業・商店あるいはNPO等がもっと地域の輪の中に入っていくということが、この柱で重視されているかと思います。その観点から、この評価ということについて、もう少し御意見をいただきたいと思います。

(竹谷委員) 我々も活動で一つだけ変えなければいけないと思うのが、福祉関係だとなるべく安く、基本的にはお金を取らないというような感じが多いのですが、それだと後継者が育たないような気がします。やはり、ビジネスとして受益者負担をこれから浸透させなければいけない。受益者負担でお金を払うのをためらうようなサービスであれば、それはサービスが悪いのであって、喜んでお金を払っていただくようなものを開発しないと、若い方々が入ってこないのではないかと感じました。受益者負担的なものを入れて、より充実するような工夫をしなければいけないと考えています。

(山田委員) 地域の福祉の現場で、個人のボランティアさんが思いを持って活動していたり、地域のNPOや自治会・町内会の方々が、個別の家庭を支えるのに一生懸命日常的に活動していたりしています。乳幼児に限って見ているだけでもハイリスクな家庭が非常に多いです。専門的支援も必要とする場合があることから、ボランティアで支えていいものなのか、ボランティア自身を守るということも大事なことです。子育てだけではなくて、高齢の分野もそうですが、地域包括ケアが始まって生活支援をどうするかというときに、地域で支えると言いつつも、複合的な課題とかハイリスクがたくさんある今の中で、担い手をどう支えていくか。担い手の支援、支援者の支援というのは、やはり行政や区社協と一緒に取り組んでいかないと、思いのある方ほどくじけて折れてしまうので、そこはこれからの課題なのかなと感じています。

(名和田委員長) 幾つか貴重なご意見いただきましたが、どこからどこまでが専門機関の役割で、ボランティアあるいは地域の役割で、有償的な人材が必要なのか、この辺の仕切りがはっきりしていません。ドイツなどは非常にはっきりしていて、ボランティアの役割が大きくない国づくりをしています。日本の場合はそこが非常に曖昧としていて、民生委員などに専門性の高いことをお願いする反面、それがハイリスクの家庭や、子供なりがふえてくると、難しい問題が生じてくる。この柱はそういう問題が背景に伏在していると理解した次第です。事務局におかれましても、そういった問題も意識しながら、第2回に向けて議論を整理していただきたいと思います。

では、最後の柱に進みたいと思います。

(事務局) 柱3-5について説明

(名和田委員長) 特に御意見がなければ、次回も今回同様の形式で行う予定とのことですので、事務局に整理していただいた上で、さらにこの場で十分な議論をしていく時間

	<p>をとりたいと思います。</p> <p>【報告1】 計画推進における平成28年度の取組について (事務局) 資料3、4-1、4-2について説明 (名和田委員長) 今、区でも評価を行っていますが、全市でも洗練された評価手法で評価が進められています。そうしたことについて、課長会や係長会で紹介し、意見交換しているのかと聞いたら、そうでもないと聞きました。区と全市の評価の手法などについての意見交換や、あるいは実際、地区別計画の進め方について悩んでいる区もあるように思います。そういうことについて意見交換はされているのでしょうか。</p> <p>(事務局) 主に区で計画を進めているところが福祉保健課の事業企画担当になるので、担当者を集め、事業企画担当者会議を開いています。その中で福祉保健計画の取組や工夫について情報交換するような場を設けており、評価の時期にそういった評価の部分を含めた情報交換を行っています。また、地区別支援チームを運営していくに当たって、区と区社協を対象にマネジメント研修などを企画し、円滑に進めていけるように取り組んでいます。</p> <p>(名和田委員長) 報告事項も多いと思いますが、ぜひ実質的な意見交換をされて、良い形で全区進むようにしてほしいと思います。</p> <p>【報告2】 よこはま地域福祉フォーラムについて (事務局) 資料5について説明 (名和田委員長) 何か御質問、御意見はございますか。特に御発言がなければ、本日の議事は終了しましたので、進行を事務局にお返しいたします。皆さん、ご協力ありがとうございました。</p> <p>閉会</p>
<p>資 料</p> <p>・</p> <p>特記事項</p>	<p>○平成28年度第1回横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 次第</p> <p>○横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 委員名簿・事務局名簿</p> <p>○第4期区横浜市地域福祉保健計画策定スケジュール <資料1></p> <p>○第3期区横浜市地域福祉保健計画中間評価について <資料2-1></p> <p>○第3期横浜市地域福祉保健計画(柱1~3)評価シート <資料2-2></p> <p>○第3期横浜市地域福祉保健計画(柱1~3)推進状況 <資料2-3></p> <p>○平成28年度 第3期横浜市地域福祉保健計画関連事業取組予定スケジュール <資料3></p> <p>○第3期区地域福祉保健計画 推進状況スケジュール <資料4-1></p> <p>○地域福祉保健計画に関連する各区の状況 <資料4-2></p> <p>○よこはま地域福祉フォーラム関連資料 <資料5></p>